

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
370	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Low prevalence of the metabolic syndrome in wine drinkers--is it the alcohol beverage or the lifestyle? ワイン飲酒者ではメタボリック症候群の頻度が低い—飲酒習慣か他の生活習慣か?	
執筆者	
Rosell M, De Faire U, Hellenius ML.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Eur J Clin Nutr. 2003; 57: 227-34.	
キーワード	
飲酒、生活習慣、メタボリック症候群	
要 旨	
<p>背景</p> <p>少量から中等量の飲酒は、循環器疾患のリスクを低減させるとされている。飲料の種類別では特にワインの有用性が指摘されることが多いが、飲料の種類と循環器疾患の関連には議論がある。本研究では、60歳の男女を対象として、ワイン、ビール、蒸留酒などの飲料の選択と他の生活習慣とメタボリック症候群との関連を検討した。</p> <p>対象と方法</p> <p>1997年8月から1999年3月に、ストックホルム County に居住する60歳の男女を対象として飲酒量、その他の生活習慣、既往歴、血液検査、血圧測定などが実施された。飲酒量は、問診で把握され、非飲酒群 (0g/日、エタノール換算)、低飲酒群 (1-10g/日)、中等度飲酒群 (&gt;10-30g/day)、高飲酒群 (&gt;30g/day) に分けられ、中等度飲酒群は、さらに特定のアルコール飲料が10gを超えているかどうかで、ワイン群、ビール群、蒸留酒群、混合群に分類された。メタボリック症候群は、高インスリン血症 (上位 25 パーセントイル) を持ち、高トリグリセライド血症、高血圧、脂質代謝異常、中枢性肥満 (ウェストサイズで判定) の少なくとも2つを満たす者と定義した。</p> <p>結果</p> <p>低飲酒群を基準とすると、ワイン群は、既婚者、大卒者が多く、常勤の仕事を持し、スウェーデン生まれで、経済的状況、余暇時間、自覚的健康状態などにおいて良好な生活の質を有する者が多かった。混合群もワイン群と同様の傾向を示したが、非飲酒群はこれらの指標はワイン群と逆の状態を示した。ワイン群は、魚と野菜の摂取頻度が高く、蒸留酒群は、ソーセージ、ベーコン、フライドポテトの摂取頻度が高かった。各医学的検査指標は、ワイン群、混合群で良好であり、蒸留酒群は、ウェストヒップ比とインスリン値が最も高かった。メタボリック症候群の頻度は、低飲酒群の14%に比し、女性のワイン群では有意に低かった(8%)。喫煙、教育、移民かどうか、雇用、身体活動、野菜摂取を調整しても、女性のワイン群ではメタボリック症候群の頻度が低かった (オッズ比; 0.60, 95%CI: 0.40-0.91)。</p> <p>結論</p> <p>低飲酒群を基準とすると、ワイン群ではメタボリック症候群の頻度が低く、ほとんどのすべての生活習慣も良好な状態を示していた。飲料の選択を含む飲酒習慣は、その他の生活習慣と密接に結びついており、それらのすべてを調整することはできないため、飲酒習慣と健康の関連を明らかにすることは複雑な課題と考えられる。</p>	